

### ●マティアス・ヤコブセン

今年26歳のスウェーデンのギタリスト、マティアス・ヤコブセンが、シャロン・イスピンに師事してジュリアード音楽院を卒業したのは3年前。その後もニューヨークに住んでいる。彼がギターを始めたときの指導者は、ナッカ市立音楽院のErik Mollerstromと、ソドラ・ラテン・ギムナジウムのポー・ハンソンである。18歳で南スウェーデンに移り、マルモ音楽大学でイヨラン・セルシェルとグナル・スピュート Gunnar Spjuth に師事した。

ニューヨークとスウェーデンの違いについて、ニューヨークには人口が多いことに加えて、影響力のある人が相対的に多いと、ヤコブセンは見ている。「ギター界について言えば、スウェーデンのギター演奏は、ニューヨークに匹敵するほど極めて高い水準にあります。スウェーデンの人口は、ニューヨークの半分ですが、クラシックギターの演奏プログラムのある音楽院が、ストックホルム王立音楽大学とマルモ音楽大学と2校もあります。スウェーデンでは、学生の経済的な背景に関係なく小人数のクラスや個人に対して、芸術教育を含む幅広い最高の教育を提供しています。私はその恩恵を受けた1人ですが、スウェーデンのすべての学校と同じように授業料無料のソドラ・ラテン・ギムナジウムに、オーディションのみで入学が認められました。そして、すべての分野を

網羅した音楽及び社会教育システムの最先端をいっている素晴らしい例と言えば、高潔な巨匠、ホセ・アントニオ・アブレウが学長を務めるベネズエラの El Sistema です」と彼は語った。

ヤコブセンは同時に、ニューヨークには所得レベルから音楽演奏のレベルに至るまで大きな格差があると感じている。「真の中心都市であるニューヨークには、ビジネスで成功する可能性があるだけに、あらゆる分野で最高のものを生み出す能力があります。しかし、2008年の経済危機の前後を含めてこの地で生活してきましたが、私にとっては、それはとてもショッキングな経験でした。米国では、すべてが私的な資金に依存しているの、株式市況が芸術に与える影響は非常に大きいのです」

### ●タレガとショパンのCD

ヤコブセンのタレガとショパンの作品を集めた最初のCDはオーディオ・エンジニアの分野でグラミー賞を獲得したデイヴィッド・フロストのプロデュースで録音され、ロンドンのアビー・レコードからリリースされる。タレガの作品は、ピアニストにとってのショパン作品のようにギタリストに非常に愛されており、レパートリーの核になるような位置にある。彼が、タレガの編曲したショパンを勉強していたころ、タレガ自身の作品に

は間違いなくショパンの影響があると感じたことがあった。それがきっかけで、この関係を立証するために、タレガの作品の中で最もショパンらしい作品であるプレリュード、マズルカ、それにノクターンとは呼ばれずとも同じような機能の作品を選び、その後にタレガが編曲したショパンのプレリュード、マズルカ、ノクターンを録音したCDを作るアイデアが生まれた。

「タレガの編曲は、崇敬するショパンの作品が持っている新しい音楽情報を明らかにしてくれました。そして、ショパンの作品が、タレガの音楽に影響を及ぼした要素を知ることができたのです。明らかに、タレガには強いスペインの影響があり、その典型的な作品がホアキン・マラツの〈スペイン風セレナータ〉だと私は思います」とヤコブセンは言った。

ヤコブセンは、タレガの弟子であるミゲル・リョベートのギターに対する詩的なアプローチ、特に彼のカタルーニャ民謡を好んでいる。それゆえに、この作品とタレガのもう一人の弟子であるエミリオ・ブジョールの作品を彼のCDに加えた。「リョベートと違って、ブジョールには、コントラストのおもしろさと非常に劇的な要素があるばかりではなく、リズムとハーモニーの複雑さにも力を入れていることを知ったのです」と彼は言った。さらに、エドゥアルド・サインス・デラ・マーサの作品もCDに加えられたが、



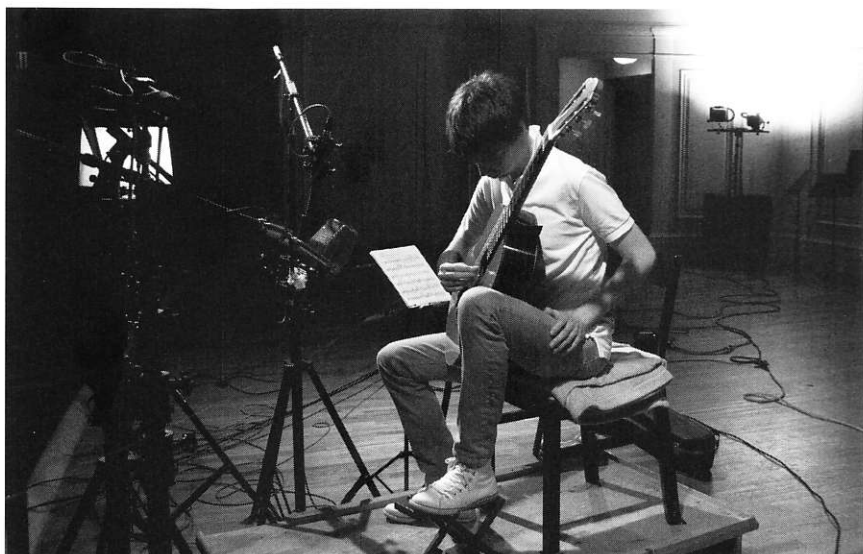
マティアス・ヤコブセン

理由は、彼がタレガの高弟であるミゲル・リョベートとダニエル・フォルテアの弟子だったからである。E.S. デ・ラ・マーサは、ヤコブセンの師であるエリク・モレストロムの恩師にあたる重要な人物であり、ヤコブセンがレコーディングの際に使用した1971年製イグナシオ・フレタのギターをエリク・モレストロムが手に入れるのを助けたのがE.S. デ・ラ・マーサだったのだ。

「このCDに入っているレパートリーは、私の受けた音楽教育を要約したものであり、恩師であるエリク・モレストロムへのオマージュです。私はこうした作品を若い学生の頃に勉強しました。ですから私のソロのレパートリーの基盤となっています。タレガの作品に焦点を当てることによって、タレガが弟子を通じて残した遺産ばかりではなく、タレガのインスピレーションを表現しています。このレパートリーは、私の恩師であるエリク・モレストロムが学んだことがあり、現在でも短期間住んでいるバルセロナと深く結びついています。そこには、私が、恩師を通じて音楽的に成長し、ギターの演奏法を学んだ雰囲気があるのです」

ヤコブセンがこのアルバムのレコーディングを行なったのは、ニューヨークのアメリカ芸術文学アカデミーにある、客席数730の古い木製の箱型をした、優れた音響性でよく知られているホールだ。彼は録音用に自宅で使っている椅子を持参し、ホール全体の照明は、高いスタンド4本からの明かりと、彼のそばに立てた、とてもしゃれた古いフロアランプだった。この古いランプは、舞台上に置かれていた間、素晴らしい音楽を聴いたはずで、彼はこのランプをレコーディングのときの素敵なお仲間のように思った。

オーディオ・エンジニアのデイヴィッド・フロストは、これまでオペラ歌手のルネ・フレミング、ジャズのウィントン・マルサリス、ピアノのアリシア・デ・ラローチャといった芸術家と仕事をしてきた。「レコーディングの前に、フロストが私にレッスンをしてくれたので、とても助かりました。レコーディング全体を通じて感じた彼の印象は、誰か親切な人が、しっかりと私の襟をつかんで上へ上と引き上げてくれるような感じでした。イヨラン・セルシエルの指導を受けていたときにも同じような経験をしました



が、私に実力以上の演奏をさせてくれるのです。1曲あたり30～40分で録音しました。楽しかったのは、録音が終わってから、フロストがこのアルバム用の写真を無償で撮影してくれたことです。彼は素晴らしい写真家で、我々は秋のある日、ニューヨークのマンハッタン東側を走っていた旧高架鉄道、通称ハイラインと呼ばれる軌道を利用して作られた新しい公園で落ち合って撮影したのです」

CDラベルのグラフィック・デザイン部門が、フロストが撮ってくれたこの写真を、実際に使うか否かは定かではないが、ヤコブセンのウェブサイトに掲載されるとのこと。今月アビー・レコードがデジタルEPをリリースした後、2012年2月には、このアルバムのフルバージョンがリリースされる。デジタルのリリースはマティアス・ヤコブセンのウェブサイトとレコードレーベルのウェブサイトに掲載される予定。(http://avie-records.com/newreleases.phpを参照のこと)アビー・レコードは、かつてジュリアン・ブリームのDVD〈わが音楽人生〉をリリースしたことで有名な会社である。

### ●アメリカとスウェーデンでのコンサートツアー

ヤコブセンは、2012年にアメリカとスウェーデンでコンサートツアーを予定している。「音楽作品を、私がどのように理解しているかを皆さんにお聴かせすることができるので、コンサートで演奏するのは大好きです。私の心からの音楽

を、聴く人に伝えることができるということは、言葉ではっきりと言い表わせない感覚です。生きている限り、数多くのコンサートを開きたいと願っています。聴衆の前にして、1人でステージに向かって歩いていくことが、どれほど光栄なことか、私はよく知っています」とヤコブセンは言った。「旅行をすることも、これまでと違った場所で演奏することも、私は好きです。日本は、私がぜひ行ってみたいと思っている国です」

彼のYoutubeサイト <http://www.youtube.com/user/guitarcactus> へのアクセス数が最も多いのは、アメリカ、スウェーデン、日本からだという。作曲家フランシスコ・タレガ生誕100周年を記念してスペイン国立テレビ放送が、彼の演奏を特集しているのをこのYouTubeサイトで見るができる。彼は、ソト・デル・レアル刑務所で、被収容者に対してクリスマス・コンサートを無償で行なったことがある。その時のコンサートについて、スペインのボランティア連帯組織は、次のように報じている。「ヤコブセンは、コンサートの最後に〈タンゴ〉を演奏した。そして聴衆のリクエストに応じて〈ロマンス〉を演奏した。困難な人生を生きてきた人々で満員になった刑務所の狭い図書室の静寂の中に、ギターの弦と和音の美しい音色が響きわたり、ささやかな喜びがもたらされた。」

詳細は <http://www.mattiasjacobsson.com/> にアクセスのこと。